

中学校体育授業における「体づくり運動」の教材開発 —男子新体操を視点に—

谷本 竜也 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 黒澤 寛己

キーワード：体力低下，体づくり運動，男子新体操

1. はじめに

近年では，児童生徒の体力低下や運動能力の二極化の問題が深刻化しており，体育授業の課題も多い．大窄ら(2006)や片野(2011)によれば，児童生徒の心身の健全な発育・発達を促すためには，心と体を一体としてとらえた指導が重要であるということである．また，2002年に新しく学習指導要領が告示され「体づくり運動」が導入された．体力を高める運動のねらいとして，体の柔らかさ，巧みな動き，力強い動き，動きを持続する能力を高めることが求められている．そこで提案したいのが，男子新体操の動きである．そこで本研究では，男子新体操の特性を有効利用した「体づくり運動」のプログラム開発を行うこととする．

2. 研究方法

1)資料・文献調査

学習指導要領，体育科教育に関する文献，新体操に関する文献

2)インタビュー調査

現中学校教員への半構造化インタビュー

3)プログラム開発

3. 結果と考察

資料・文献調査により，体力を高める運動のねらいと男子新体操の特性を表1にまとめた．

(表1 体づくり運動と男子新体操)

体づくり運動	男子新体操
体の柔らかさ	柔軟体操
巧みな動き	リズムカルな動き，しなやかな動きなどの表現，バランスなど

力強い動き	タンブリング，スクワットなどの動き
動きを持続する能力	様々な動作で，動き続ける

以上のことから，「体づくり運動」と「男子新体操」には関連性があることが明らかとなった．また，中学校教員へのインタビュー調査により，「二極化」「運動に取り組む態度」「運動嫌い」などの問題点が明らかとなった．以上のことから，運動の楽しさや，中学生が興味を持って取り組むことのできるプログラムを開発する必要があると考察する．本研究では，男子新体操の動きを取り入れた「体づくり運動」の指導プログラムを開発した．

4. まとめ

今後の課題として，本プログラムを中学生に体感してもらう必要があることや，実際に授業で実施するには，中学生に対応した音楽を選択する必要があると考える．

主な参考文献

大窄貴史ほか，2006，中学，高校の体育授業における「体づくり運動」等の指導内容，中京大学体育学論叢，47(1)，1-13